自民党の女性国会議員である杉田水脈氏が、「生産性がないＬＧＢＴに税金を使うことに賛同は得られるのか」と雑誌に寄稿し、国内外から非難が殺到しています。にもかかわらず、杉田氏は「大臣級の先輩方に認められ、激励された」とツイッターに投稿し、二階氏は「人それぞれ人生観がある」とコメントしました。

麻生財務大臣は、財務次官のセクハラ問題に関して、「はめられたという意見がある」「セクハラ罪という罪はない」と発言しました。

　自民党議員が、これらの「性」に関する差別や偏見に満ちた発言を軽々しく繰り返すのは、彼らを支援し、支持してくれる人々の思いを代弁しているという自負があるからでしょう。

これはとても危険なことだと思いませんか？

大分県の高校では、「性で分けない名簿」　の導入率が今年１００％になりました。小中学校の導入率１００％、高校もその学校以外は導入という中でも頑として「男女別（しかも男子が先）名簿」を貫いてきた「伝統校」（１～２校）が、人権教育からのアプローチを含め、粘り強い取り組みで「分けない名簿」へ転換しました。

宮崎県の高校では、ＬＧＢＴＱの子を持つ県議会議員とつながって運動を進め、「分けない名簿」の導入が飛躍的に進んでいます。

福岡県は、将来教師として学校現場に戻ってくる可能性のある生徒が多い高校ほど「分けない名簿」の導入は進んでおらず、導入の検討もされていません。大学でも職場でも名簿が性で分けられることはないのに…。なぜでしょう？



**１.メディアリテラシーを含む意識慣習の見直し**

メディアを視聴している時に感じる違和感、進学・就職・生徒指導・職場環境・管理職の対応・行事・祭祀など、職場や地域で感じる「おかしい」について考えましょう。

**２**.**ジェンダーにとらわれない多様な職業観**

「同一価値労働同一賃金」「働き方改革」……、性別に関わりなくワークライフバランスを実現できる職業や労働のあり方とは？

**３.性にかかわる権利の学習**

文科省はＬＢＧＴの生徒の人権について指針を出しています。今春には妊娠生徒の学業継続支援についての通知を都道府県教委に出しました。性感染症やＤＶなどの問題にも取り組みましょう。

**４.各教科での授業の構築**

私たちの本職です。次の世代に「おかしい」「ありえない」を残さないために。ジェンダー平等教育や性の教育の実践を持ち寄りましょう。

**１.「両性の自立と平等をめざす教育」**

**研究会　全国集会**

**（８月３日～４日）**

**２**．**日教組女性参画推進担当者会議**

**（９月１日～２日）**